

2011年度漢城大学校サマープログラム(9月5日～9月21日)報告書

旭川校 教員養成課程理科教育専攻1年

高橋 真利亜

1. はじめに

私は、9月5日から21日までの約2週間半の間漢城大学校のサマープログラムに参加しました。私は中学生の頃に海外派遣研修で一度韓国に行ったことがありました。そのときから韓国の言語や文化に興味を持つようになりました。今回のプログラムに参加することで中学生の頃よりも韓国のことについて詳しく知ることができると思い、応募しました。本校からは5名と、山口県の大学生2名の計7名が参加しました。また、活動をするにあたっては漢城大学校の2名の学生に協力していただきました。

2. 授業について

授業は6日、8日、9日、15日、19日の午前中に行われました。授業の流れとしては前半の1時間に韓国語について、後半の1時間は韓国語概要、政治経済、大衆文化、現代韓国社会、言語意識と言語行動の日韓比較について勉強しました。韓国語の勉強は、このプログラムに参加する前に韓国語を学習したことがある人となない人の両方がいたので基本的な挨拶や日常会話、単語をいくつか教えていただきました。私は少しながら韓国語の勉強をしていましたが、知らない単語もいくつかあったので語彙力を増やすことが出来たと思いました。

授業で習ったこと

<言語意識と言語行動の日韓比較>

○チョッカラと箸の違い

- ・材質（韓国では金属で、日本では木やプラスチックでできている）
- ・置き方（韓国では縦、日本では横に置いている）
- ・韓国では食事の際にスプーンを用いる

○言葉づかい

↑

韓国では待遇関係が発達している

例：アンニョンハセヨ？ おはようございます。

アンニョン？ おはよう。

○あいさつの類型

韓国の場合…。

・一話完結型で、一度その場で感謝や謝罪の気持ちを伝えたなら次回あった時にもう一度伝えない。

日本の場合…。

・反復確認型で、その場でも繰り返しあいさつをし、次回会った場合もう一度感謝の言葉などをいう。

・繰り返し言うことで人間関係が円滑になるという考え

3. ソウルの都市の様子

明洞という場所は海外からきた有名な服屋や化粧品屋、雑貨屋など、おもに若者向けのお店がたくさん立ち並んでいました。弘大は学生の街と呼ばれていることもあり、おしゃれなカフェや服屋がありました。また交通機関に関しては、北海道よりも発達しているように感じました。気になったこととしては、日本よりも信号無視をしていた車両が数えきれないほどあったことです。

4. まとめ

今回のプログラムでは私が目標としていた語彙力の向上は図ることができませんでした。一人ではあまり行こうと思わないところ（例：軍事境界線）に行くことができたり、韓国の文化について中学生の頃よりも深く触れることができました。また、地下鉄やバスなどの交通機関にも通訳の学生さんなしでも乗ることができるようになりました。もう一度韓国に行く機会があれば、一人でいろんなところに行けるようになりたいです。



<弘大の街並み>



<伝統芸能の演舞をしていた人と>



<昌徳宮（チャンドククン）>



<イチョン>



<都羅山驛 (トラサンエキ) で>